

自己評価票

自己評価は全部で101項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 陽だまり苑
(ユニット名)	川東ユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県新発田市岡田1746番地の1
記入者名 (管理者)	川崎 雪江
記入日	平成20年 2月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者が自己の持つ力を十分に発揮し、日々の生活に張り合いや喜びを感じ、地域の一員として当り前の生活が営まれるよう支援することを理念として掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>誰でも見やすい場所に理念を掲げており、管理者と職員は理念を共有しながら、その実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>利用者の日々の活動や生活ぶりなどを紹介する意味で地域のイベントに作品を出展参加することで、地域の人々と交流を図り、理解して貰えるよう取り組んでいる。</p>	<p>グループホームだより「陽だまりの詩」を月1回家族や地元地域の回覧板に回し活動を伝えることで、理解を深めて貰うよう取り組んでいる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣農家の協力のもとで苑の玄関先で野菜の朝市を開催したり、道路をはさんだ食品団地内の店まで買い物がてら散歩し交流を図っている。</p>	<p>すぐ近くに温泉施設があり、時折利用者と共に足湯に出かけ、気軽に交流する機会もある。また、毎年春の桜の頃には食品団地祭りに出かけ、交流している。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>夏には法人全体の夏祭りが開催され、地元の人々の協力参加もあり、盛大な催しとなっている。11月には毎年のように川東文化交流展に作品を出展し見学に行き、交流を深めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今のところ、具体的な取り組みはできていないが、地域に貢献できることは話し合い、実施していきたいと考えている。		今年の春、地元地区河岸に桜を植樹し、ミニパーク整備事業が計画されており、苑でも苗木を植樹し、維持管理に参加(草取りなど)するといった具体案が運営推進会議で話し合われている。また、缶拾い清掃の参加も検討している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施することで、サービスの見直しの機会と捉え、改善すべき事項について話し合い、取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では推進員の方の理解も徐々に深まりつつあり、有益な意見も頂けるような会議となってきた。苑の取り組みについても意見を頂いてサービス向上につなげている。		地元の方々に事業所理解を深めて頂く1つとして、老人クラブの方々に来苑して貰い、苑内見学や利用者と交流する機会を地元区長さん等の助力を得て行っていきたいと考える。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議においては南地域包括支援センターのケアマネージャにも参加して貰い意見を頂いているが、現状では市町村と密に連携を図っているとは言えない。		市の担当者の方にも運営推進会議に参加して頂く機会を図り、市との連携を密に行って行きたいと考えている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前入所されていた方の家族が成年後見人制度の申請をされるというケースがあり、直接的な支援ではなかったが制度を知る機会となった。全職員が制度を学ぶような研修はまだ行っていない。		今後は権利擁護や成年後見制度に関する知識を深める研修参加や話し合いの場をもち、支援する体制をとっていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する文章を苑内に掲示し、利用者の人権を侵害することのないよう、人としてのモラルを高め、虐待のないケアに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には利用者・家族の不安や疑問に対し、十分な説明を行い、ホームの運営方針や支援の在り方に理解、納得を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や不満、苦情等、話しやすいような関係づくりに努め、日々の生活場面で表出できるよう支援している。		利用者の意見や不平・不満等を運営推進会議で話し合い、改善に向け運営に反映させていきたいと考えている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来苑時や月ごとのホーム便りを通じて利用者の日常の様子やホームの活動を報告している。また、個々の支援についての相談など。家族との連携を密にし情報共有を図っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族が意見や不満・苦情等言いやすい関係づくりに努めると共に、きちんと受け止める姿勢を示している。		苑内に苦情相談の窓口の案内文章を掲示している。運営推進会議を活用し、運営に反映させていく。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の場で意見交換したり、日頃から疑問・問題点があればきちんと話し合い、運営に反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診の付き添いなど家族の都合を考慮し、柔軟な対応で臨んでいる。また、催事や行事等には、職員数を増やし、万全を期しての対応に努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を最小限に抑えるよう努力しており、配属が決まった職員は予め利用者個々の顔や名前、状態の収集に努めるなどダメージ軽減を図っている。		
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備されており、職員に周知されている。また、職員は各種委員会に所属し、委員会での協議事項を全職員に周知するよう随時報告している。		防災や感染症対策においては委員会メンバーが中心となり訓練や研修、シミュレーションを実施し、万全に備えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人教育研修をはじめとし、法人全体の年間研修を計画し、人材育成に取り組んでいるが、さらに法人外の研修にも参加できる機会を確保していきたいと考えている。</p>	<p>法人外の研修に参加する機会をつくり、職員の育成に取り組んでいきたいと考える。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ネットワークづくりや勉強会といった具体的な活動には至っていないが、時折、他事業所職員との交流があり、情報交換や日々の取り組みなど話し合う機会となっている。</p>	<p>ネットワークづくりや勉強会、相互訪問など具体的な活動につなげるよう他事業所と協同していきたいと考えている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士の親睦会や意見交換会など、職場を離れた場で定期的開催しストレスの軽減・気晴らしに努めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員は半年に一度の自己評価を通し、各自仕事への取り組みについて見直しを行い、新たな自己目標に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員はそれぞれにホーム内での役割を担い、また、法人全体の各委員会メンバーとして参加し、自己啓発に努めている。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問時に本人・家族より話をよく聞き、問題や不安、また希望している事などを把握し、入所後のケアに役立てている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前の訪問時や入所後も家族の背景や抱えている問題・不安な事、また希望などをよく話し合う機会を持ち、信頼関係が築けるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>担当ケアマネージャや窓口となる相談員からの情報をもとに、また直接の面談で得た情報に基づき、本人や家族がまず必要としている支援の見極めを行い、初期対応できるように努めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して新しい環境に馴染んでいけるよう、支援内容を家族と相談し、入所後しばらくの間は頻回に来苑して貰ったり、職員も声かけを多くし見守り、本人の安心感につなげるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と多くの時間を共有する中で喜怒哀楽を共にし、一緒に泣いたり、笑ったり、時には昔ながらの慣習や知恵を教えて貰い、一緒に作業する中で共に支え合う関係を築いている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族と共に本人の生活を支えていくことの大切さを十分理解しており、良い関係づくりに努めている。催事や行事にはできるだけ参加して貰い、一緒に楽しむ機会を図っている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人と家族の関係や背景にあるものを深く理解するとともに、互いの話をよく聴いたり、相談に応じたりしながら、より良い関係が築けるよう支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人、知人の訪問時には温かく出迎え、ゆっくり過ごして貰うように声をかけている。また馴染みの店や理美容院の希望があれば、家族や職員で対応している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、気の合う仲間同士交流しやすいよう席に配慮したり、コミュニケーションの取りづらい利用者が孤立することなく交流の輪の中に入れるよう職員は仲立ち支援している。</p>		<p>利用者間で家事作業分担がほぼ決まっていることが多く、職員の声かけが無くとも互いで分担し合い、支え合っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の特養に移られた利用者への面会や家族とも継続的に関わっており、相談を受けたりしている。また、他施設や医療機関に移られた利用者についてもその後の情報を家族に聞いたり、面会に行ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケアの中で本人の希望や意向を聞くように努めている。自分で伝えられない場合は家族に確認したり、本人の行動や様子を見て、本人本位に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は本人や家族からこれまでの暮らしぶりを十分に聞き、生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は日々の状態を毎日個別の支援経過に記録し、職員間で情報共有し必要時カンファレンスを開催し、現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人や家族の意向を確認し、必要に応じて主治医にも意見を伺うなどそれぞれの意見が反映された介護計画となっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間を定めて見直しを図っているが、状態変化時には早急にカンファレンスを開催し、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に支援経過を記入し、重要な事項はフローー日誌に記録し申し送りにて全職員が情報共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養やデイサービス居宅介護支援事業部との連携により、必要に応じ柔軟な支援ができる体制である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域文化交流展への参加、地域ボランティアの協力、消防署立会いの避難訓練の実施、小中学生の訪問など協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、他のケアマネジャーや事業者・相談員とは連携を図り支援している。特に入院後の支援方針や、他事業所への転居に際しては密に連携をとって支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市からの委託事業として、南地域包括支援センターを引き受けており、必要に応じて情報共有し協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の嘱託医が主治医となり、日頃の健康管理を依頼しているが、本人や家族の希望によって主治医を決めており、適切な医療を受けられるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所の主治医と相談連携しながら、支援している。状態によっては、主治医の指示に従い、専門医への受診支援ができる体制である。		個別で専門医にかかっている方には、定期的に主治医に状態報告し、支援している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設特養看護師やかかりつけ医の看護師とは必要に応じ健康状態について相談しながら支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族了解の上でホームで支援可能な状態であれば早期退院も可能である為、家族・医療機関と密に連携をとり支援している。		協力病院の相談員にいつでも相談できる体制が出来ている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方、延命治療を望むのかなど早い段階で本人や家族に意向を伺うようにし、職員間で方針を共有している。		重度化した場合を考えてすでに特養への申し込みをしている方もおり、また終末期のケアについても家族とよく話し合いながら可能な限り支援していきたいと考えている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	特別な医療行為を必要としなければターミナルまで利用可能であり、また重度化した場合は家族・主治医と連携し、支援の見極めを行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時は本人・家族より、これまでの暮らしぶりや趣味・嗜好等を聞き、居室には馴染みのものを置くなどダメージの軽減を図っている。退居に際しては本人の生活の様子や健康状態など情報提供し、支援を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者一人ひとりに合わせた会話や誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや記録に努めている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	日常生活の中で本人の思いや希望を聞くように努め、個々の有する力に合わせた言葉かけや説明を行い、自己決定ができるように支援している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	職員は一人ひとりのペースを大切にしており、本人の希望にそって支援している。また、行事や催事が予定されている場合には、事前に本人に確認をとり希望に添うようにしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	行きつけの理美容院がある利用者に対しては、本人の希望に添って支援している。また、個々の力に合わせ、洋服を選んだりできるよう支援している。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	食事メニューには、利用者の好物を取り入れており、一人ひとりの力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	本人の嗜好を聞きながら、日常的に支援し、楽しんで貰っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声掛けや誘導により、トイレでの排泄をより可能にし、気持ちよく排泄できるよう支援している。		個々の状態に合わせ、昼と夜間の下着の使い分けなど、できる限り自立排泄に向けて支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に応じた順番や気分を大切に、職員の都合優先とならないよう支援している。夜間入浴の希望があれば柔軟に対応したいと考えている。		季節行事を取り入れ、菖蒲湯、ゆず湯など楽しんで頂いている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり、自分のペースで日中過ごされているが、横になりがちな方には、できるだけ起きて活動して頂くよう、体操や作業を提供し、夜間良眠につなげるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かせるような役割づくりや趣味や楽しみごとが継続できるような環境を整え、張り合いや喜びのある生活が送れるように支援している。		囲碁の趣味をしている方の囲碁相手の確保や依頼など、継続できるよう支援している。北国の春に合わせて歌や体操の実施。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、支援しているが、家族との話し合いのもとで所持する金額を決めている場合もある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物の同行や敷地内にある観音様に散歩がてらお参りなど希望を取り入れながら戸外に出る支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎に外出行事を計画し、希望される家族も同行している。また普段からも行ってみたい場所など聞くようにして、出かける機会をつくり、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されていることで、入居者は自由に外とのやりとりができるようになっている。また、年賀状を書かれる入居者には、毎年出して貰うように声掛けをし、支援している。		季節に合わせた簡単な絵手紙などを取り入れて、家族とのやり取りができるよう支援したいと考えている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人、知人の来苑時には温かく出迎え、気軽に話が出来るような関係づくりに努めている。また、他利用者との交流をしやすいよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を苑内に掲示し、職員は正しく理解した上で、その遵守に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は施錠することの弊害を理解しているが、立地条件や安全性を考慮し開錠は時間を設定している。		併設の事務所とは情報を共有し、行方不明者の防止に努めている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はダイニングを拠点に見守り、一人ひとりの行動の把握に努めている。夜間はプライバシーに配慮し、安全確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や洗剤など夜間は所定の場所に管理し、危険を防止している。日中は一人ひとりの状態に応じて対応し、見守りの中で使用して貰っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種マニュアルが整備されており、また研修を通し知識を学び事故防止に取り組んでいる。一人ひとりの状態に合わせた支援を提供することで未然に防止するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は急変や緊急時対応の研修参加やマニュアルを熟知することで、急変や事故発生に備え、対応できるよう取り組んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時は地域消防団の支援を受けられるよう協力体制ができている。また、年2～3回避難訓練を実施し、万全に備えている。		運営推進会議においては、地元代表の方より災害時の食糧支援の申し出も受けている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状態により、起こり得るリスクについて家族等と話し合いをもち、本人の安全に配慮した上で自由に日常生活が送れるよう、家族と一緒に対応策や改善策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変の兆候を見落とさないよう日々注意を払い、フロアー日誌等の記録や申し送りにて全職員が情報共有し、早期対応に結び付けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの病気や薬の効能を理解し、医師の指示通り服薬できるよう支援すると共に、症状の変化を確認し、体調の見落としのないよう努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は毎日水分摂取量の確保や食物繊維を多く取り入れた食事提供等工夫し、排泄チェック表をつけて排便の把握と便秘の予防に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、職員の介助や声かけ、見守りの中で支援し、口腔内の清潔保持に努めている。		協力歯科医による週1回の訪問診療や定期的な歯科検診が実施されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分量を記録し、一人ひとりの健康管理に役立てている。水分量がきちんと確保されているか職員間で申し送り、十分な摂取ができるよう支援している。		担当職員が立てた献立表を併設特養の管理栄養士にチェックして貰い、バランスの取れた食事提供に努めている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルが作成されており、職員は研修会やシミュレーションを実施して予防に取り組んでいる。またフロア内の手すりやトイレの便座などはハイター水で拭き日常マニュアルとして実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は業務終了時ハイター消毒し、十分に乾燥した後、所定の場所で管理している。食材も毎日買い物に行くことで新鮮なものを提供し、食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には分かり易く親しみのある表札があり、玄関口にも草花や小物を飾り、誰もが気軽に訪問できる雰囲気となっている。また安全に出入りするためのスロープや、長椅子を置くなど工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の中心となっているダイニングには季節に合った飾りつけや絵や書、小物が配置されて居心地よく過ごせるよう工夫している。天窓や窓も多く、明るく開放的な雰囲気となっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでは気の合った利用者同士が賑やかに交流し、少し離れたデイルームは一人静かに過ごせる場となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた馴染みの家具や衣類、思い出の品々をそのまま使って頂き、居心地よく過ごせるよう支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が過ごしやすいように適温適湿に注意し、気候の変動に合わせ、窓の開閉を行うなど、空調調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、手すりの設置、車椅子対応のトイレや移動しやすい広い廊下など安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のネーム・トイレ表・風呂場ののれんなど、見てわかりやすいように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に菜園を作り、一緒に収穫したり、食卓にのせて楽しんで貰っている。また、敷地内の観音様に散歩がてら自由にお参りできるよう支援している。		

. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
	利用者の2/3くらいの
	利用者の1/3くらいの
	ほとんど掴んでいない
89 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
	数日に1回程度ある
	たまにある
	ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と
	家族の2/3くらいと
	家族の1/3くらいと
	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 毎日の買い出しや季節毎、個別支援としての外出やレクリエーションを通し、戸外に出る機会を多くし、気分転換を図っている。
- ・ 認知症レベルの違いがあっても入居者同士が支障なく共同生活が送れるよう個別支援に力を入れ、支援している。
- ・ 車椅子でも生活しやすい居住環境（バリアフリー、広い廊下、浴室、トイレ、玄関のスロープ等）であり、また窓が多い造りから明るく開放的な空間となっている。
- ・ 特養との併設により、重度化しても受け入れが可能なことで、家族の安心感にもつながっている。
- ・ 感染症対策に力を入れており、感染症の時期には必ず勉強会を行い、日常業務マニュアルとして予防に努めるとともに、発生時に備えての物品も常備し、対応している。